

【著者略歴】

酒井 直樹 SAKAI Naoki

コーネル大学比較文学部・アジア学部

思想史、比較文学、翻訳研究、国民主義・人種主義研究

『死産される日本語・日本人』新曜社、1996年／Translation and Subjectivity (University of Minnesota Press, 1997) (『日本思想という問題』岩波書店、1997年)／『希望と憲法』以文社、2008年

葛西 弘隆 KASAI Hirotaka

津田塾大学国際関係学科 准教授

政治学、思想史

「丸山真男の『日本』」、酒井直樹、ブレット・ド・バリー、伊豫谷登士 翁編『ナショナリティの脱構築』、柏書房、1996年／「ナショナル・デモクラシーと主体性——丸山真男の民主主義論再考」、『思想』1999年2月号／(訳書) シャンタル・ムフ『民主主義の逆説』以文社、2006年

日比 嘉高 HIBI Yoshitaka

名古屋大学大学院文学研究科

日本近現代文学・文化論、移民文学論

『〈自己表象〉の文学史——自分を書く小説の登場——』翰林書房、2002年／「永井荷風『あめりか物語』は「日本文学」か?」『日本近代文学』第74集、2006年5月／「北米日系移民と日本書店——サンフランシスコを中心に——」『立命館言語文化研究』20巻1号、2008年9月

坪井 秀人 TSUBOI Hideto

名古屋大学大学院文学研究科

日本近現代文学・文化史

『感覚の近代 声・身体・表象』名古屋大学出版会、2006年／『戦争の記憶をさかのぼる! ちくま新書、2005年／『声の祝祭 ——日本近代詩と戦争』名古屋大学出版会、1997年

池田 忍 IKEDA Shinobu

千葉大学文学部

日本美術史、ジェンダー表象論

“The Allure of a Woman in Chinese Dress”: Representation of the Other in Imperial Japan, In *Performing “Nation”: Gender Politics in Literature, Theater, and the Visual Arts of China and Japan, 1880-1940*, edited by Doris Croissant Catherine Vance Yeh, and Joshua S. Mostow, Leiden: Brill, 2008／「源氏絵としての神護寺「山水屏風」一字治十帖物語の舞台となる住居のイメージをめぐって」『講座源氏物語研究 第十巻 源氏物語と美術の世界』伊井春樹監修・池田忍編集、おうふう、2008年／「中国服の女性表象——戦時下における帝国男性知識人のアイデンティティ構築をめぐって」『国際シンポジウム 戦争と美術／表象 20世紀以後 記録集』(長田謙一編) 美学出版、2007年

四方 幸子 SHIKATA Yukiko

NTTインター・コミュニケーション・センター [ICC] 特別学芸員
メディア・アート・キュレーティングおよび研究

山口情報芸術センター開館記念プロジェクト ラファエル・ロサノ＝ヘル「アモーダル・サスペンション: 飛び交う光のメッセージ」、公共空間でのインタラクティブ・プロジェクト、2003 (ゲスト・キュレーター)／「モブラボ: 日独メディア・キャンプ 2005」、[日本におけるドイツ 2005/06]プロジェクト (バスによる巡回およびウェブ上)、2005 (ディレクター)／「ライト・[イン]サイト」展、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、2008 (キュレーター)

藤木 秀朗 FUJIKI Hideaki

名古屋大学大学院文学研究科

映像文化

Remapping World Cinema: Identity, Culture and Politics in Film (London: Wallflower Press, 2006, 共著)／『増殖するベルソナ——映画スターダムの成立と日本近代』名古屋大学出版会、2007年 (ハーバード大学アジアセンターより改訂英語版が刊行予定)／“Visual Historiography in Japanese Photographic Collections of the Postwar Era,” *Review of Japanese Culture and Society* no. XXI (December 2009)

秋庭 史典 AKIBA Fuminori

名古屋大学大学院情報科学研究科
美学

Basic Actions in Art Study: Toward an Intelligent Environment for Human Creative Interaction,
Ernesto Damiani, Jechang Jeong, Robert J. Howlett,
and Lakhmi C. Jain (Eds.): New Directions in Intelligent
Interactive Multimedia Systems and Services -2, 2009/07/2
/「情報社会における芸術作品とパラドクスの美学」、日本社会情報学
会 (JAS&JSIS) 合同研究大会論文集、2008年9月

岡田 聡 OKADA Satoshi

筑波大学人文社会科学部研究科博士後期課程
文化研究

牧 義之 MAKI Yoshiyuki

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究
員DC1

日本近代文学、近代出版メディア史

「英訳モーパッサン短篇集『食後叢書』に関する考察(承前)——翻訳
から見る第十二巻の存在」、『北の文庫』第47号、2008年/「石川達
三『生きてゐる兵隊』——誌面の削除に見るテキストのヴァリエント」、
『中国国文学』第28号、2009年/「『読売新聞』紙上の小栗風葉『青春』
——読者の投稿と紙上での位置」、『(東海)を読む 近代空間と文学』、
風媒社、2009年

溝渕 久美子 MIZOBICHI Kumiko

名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程
映画史・映画理論、視覚文化論

「コンフリクトの「場」としての「文芸映画」——1920年代中後期の菊
池寛作品の映画化をめぐる」、『情報文化研究』第18号、2004年3月
/「『文芸復興』としての「文芸映画」——1930年代日本における「文
芸映画」ブームに関する再考察」、『映像学』第75号、2005年11月/
「『文芸映画』の変遷—1910年代から1930年代を中心に」2008年、
鈴木貞美、劉建輝編『東アジアにおける知的システムの近代的再考を
めぐって』、国際日本文化研究センター、2008年3月

広瀬 正浩 HIROSE Masahiro

東海高等学校
日本近現代文学・音楽文化論

「基地の町の記憶——一九八〇年代半ばの村上龍の言説」、『昭和文学
研究』第49集、2004年9月/「一九八〇年代の「植民地主義」による
「交通」——坂本龍一『NEO GEO』におけるアジアへの視点」、『日本
文学』第57巻第11号、2008年11月/「電話する小島信夫——電子メ
ディア論としての「別れる理由」」、『(東海)を読む 近代空間と文学』
風媒社、2009年

畑 あゆみ HATA Ayumi

アルスター大学メディア学部博士課程
映画史・映画理論

「声の動員—1930-40年代記録映画におけるラジオアナウンサーと弁
士」、『映像学』76号、2006年

水川 敬章 MIZUKAWA Hirofumi

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究
員DC2
日本近現代文学・日本文化論

「The S.A.C. Room: CHAT!CHAT!CHAT!」、共著、『ユリイカ』37
(11)、2005年10月/「押井守『イノセンス』論—素子の暴力表象をめぐ
って」、『日本近代文学』77、2007年11月/「サド裁判論—澁澤龍
彦の戦術とその意義をめぐって」、『日本近代文学』80、2009年5月

山田 健一朗 YAMADA Kenichiro

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程
日本近現代文学・文化史

「道ならぬ恋の告白と懺悔」、『名古屋近代文学研究』22、2008年12
月/「木原音瀬『無罪世界』ほか—明日のB.L.論に向けて」、『ライトノ
ベル研究序説』青弓社、2009年/「愛の賞味期限は切れたか」、『(東
海)を読む 近代空間と文学』風媒社、2009年

朴 貞蘭 PARK Jeongran

中部大学人文社会教室非常勤講師
日韓比較教育・教科書研究

「『記憶と忘却』装置としての戦後教育」、韓国東北亜歴史財団次世代研
究人力養成事業 研究報告書、2009年6月/「戦後初期日本における
『学習指導要領』について」、『日語日文学』第38輯、大韓日語日文学会、
2008年5月/「西尾実と『国語科』教科書—『戦後検定初期』教材に
おける「連続性」問題を中心に—」、『名古屋大学 国語国文学』第100
号、名古屋大学国語国文学会、2007年10月

竹内 瑞穂 TAKEUCHI Mizuho

名古屋大学大学院文学研究科博士研究員
日本近代文学、日本近代文化史

「『民衆』からの〈逸脱〉—大正期「変態」概念・天才論の流行と文壇人」
、『日本文学』56巻9号、2007年9月/「近代社会の〈逸脱者〉たち—
大正期日本の雑誌投稿からみる男性同性愛者の主体化—」、『Gender
and sexuality』03、2008年3月/「大衆化をめぐる〈交通〉—井東憲
『上海夜話』におけるプロレタリア探偵小説の試み—」、『日本文学』58
巻11号、2009年11月

洞ヶ瀬 真人 DOGASE Masato

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程
映画史、映像文化論

「近代日本に現れた「監督者」——1910年代における監督言説の萌芽
——」、『映像学』82号、2009年/「古典的ハリウッド映画と日本映画の
近代」、『メディアと社会』第1号、2009年/「言説からの“ディレクター・
システム” 考察—日本映画史における映画監督論述の展開—」、『多元文
化』第8号、2008年

松田 愛 MATSUDA Ai

名城大学非常勤講師
近現代美術史

「メディアムからこぼれ落ちるもの—田幡浩一のアートと現代の身体、
歴史をめぐって」、『イメージとしての戦後』(日本近現代文化研究セン
ター・報告書)、2009年

毛利 嘉孝 MŌRI Yoshitaka

東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科
社会学・文化研究・メディア研究

「ストリーートの思想：転換期としての90年代」日本放送出版協会
2009年/「ポピュラー音楽と資本主義」セリか書房 2007年/「文
化=政治」月曜社 2003年